Oriental Land Co.,Ltd.

2013年3月期
第2四半期決算説明会

2012年10月30日
株式会社オリエンタルランド

Oriental Land Co.,Ltd.

Ⅰ. 決算概要

執行役員
高橋 渉

1. 上半期実績(前年同期比較)

連結損益計算書	前年同期(億円)	実績(億円)	増減(億円)	増減率
売上高	1,481	1,883	402	27.2%
テーマパーク事業	1,222	1,564	341	27.9%
ホテル事業	165	238	72	44.0%
その他の事業	92	80	△ 11	△ 12.7%
営業利益	204	390	186	91.4%
テーマパーク事業	182	321	139	76.7%
ホテル事業	29	63	34	116.8%
その他の事業	△ 8	5	13	-
経常利益	203	391	187	92.3%
純利益	86	255	168	194.3%

テーマパーク事業を中心に大幅な増収増益

1. 上半期実績(前年同期比較) - 主な増減要因

テーマパーク事業①	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	1,222億円	1,564億円	341億円	27.9%
入園者数	1,074万人	1,325万人	251万人	23.4%
ゲスト1人当たり売上高	9,904円	10,410円	506円	5.1%
チケット収入	4,120円	4,362円	242円	5.9%
商品販売収入	3,593円	3,779円	186円	5.2%
飲食販売収入	2,191円	2,269円	78円	3.6%

入園者数の増

・1Q・2Qともに好調な集客となったことにより、過去最高の実績

1Q:通常営業に戻ったことなどに加えて、両パークのスペシャルイベントの好調

2Q:前期、振替来園の影響がなくなったことによる減、新アトラクション「トイ・ストーリー・マニア!」の好調

ゲスト1人当たり売上高の増

・各収入が増加したことにより、過去最高の実績

- チケット収入の増(前期実施したチケット価格改定に伴う増)
- 商品販売収入の増(スペシャルイベント、「トイ・ストーリー・マニア!」関連商品の好調)
- 飲食販売収入の増(ワンハンドメニューの好調)

売上高は上半期として過去最高

1. 上半期実績(前年同期比較) - 主な増減要因

テーマパーク事業②	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	1,222億円	1,564億円	341億円	27.9%
営業利益	182億円	321億円	139億円	76.7%

営業利益の増

- 売上高の増
- 人件費の増　△54億円
  ー準社員労働時間・業績賞与など
- 固定経費・諸経費の増　△33億円
  ー販促費・施設更新関連費・ショー製作費など
- 減価償却費の減　＋5億円

通常営業に戻ったことなどによる

売上高の増加により増益

1. 上半期実績(前年同期比較) - 主な増減要因

ホテル事業	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	165億円	238億円	72億円	44.0%
営業利益	29億円	63億円	34億円	116.8%

- 売上高の増(通常営業に戻ったことやテーマパーク入園者数の増加などによる)
- 通常営業に戻ったことなどによるコストの増　△12億円

売上高の増加により増益

その他の事業	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	92億円	80億円	△ 11億円	△ 12.7%
営業利益	△ 8億円	5億円	13億円	-

- 「ZED」公演終了によるシアトリカル事業の増(営業損失の改善)
- モノレール事業の増(売上高の増)

「ZED」公演終了などに伴い増益

2. 上半期実績(期初予想比較)

連結損益計算書	期初予想（億円）	実績（億円）	増減（億円）	増減率
売上高	1,764	1,883	119	6.8%
テーマパーク事業	1,464	1,564	100	6.9%
ホテル事業	220	238	18	8.3%
その他の事業	79	80	1	1.4%
営業利益	282	390	108	38.2%
テーマパーク事業	236	321	85	36.2%
ホテル事業	46	63	17	37.4%
その他の事業	△ 0	5	5	-
経常利益	280	391	110	39.3%
純利益	175	255	80	45.9%

期初予想に比べ大幅な増益

2. 上半期実績(期初予想比較) - 主な増減要因

テーマパーク事業	期初予想	実績	増減	増減率
売上高	1,464億円	1,564億円	100億円	6.9%
営業利益	236億円	321億円	85億円	36.2%

- 売上高の増
- 人件費(業績賞与・準社員労働時間など)の増　約△15億円
- 固定経費・諸経費の減
  - ー下半期への費用の時期ずれ　約＋15億円
  - ー固定資産税の減　約＋5億円

売上高の状況	第1四半期	第2四半期	上半期	要因
入園者数	上回った	上回った	上回った	・両パークのスペシャルイベントや新規アトラクションの好調 ・夏休み期間に雨天日が少なかったこと
ゲスト1人当たり売上高	上回った	上回った	上回った	
チケット収入	若干上回った	ほぼ予想通り	ほぼ予想通り	
商品販売収入	上回った	上回った	上回った	・スペシャルイベント、「トイ・ストーリー・マニア！」関連商品の好調
飲食販売収入	上回った	若干上回った	上回った	・ワンハンドメニューの好調

売上高の増加などにより増益

2. 上半期実績(期初予想比較) - 主な増減要因

ホテル事業	期初予想	実績	増減	増減率
売上高	220億円	238億円	18億円	8.3%
営業利益	46億円	63億円	17億円	37.4%

・売上高の増(客室稼働率の増など)
・固定経費・諸経費の減

売上高の増加などにより増益

その他の事業	期初予想	実績	増減	増減率
売上高	79億円	80億円	1億円	1.4%
営業利益	△ 0億円	5億円	5億円	-

・モノレール事業の増(売上高の増)
・イクスピアリ事業の増(固定経費・諸経費の減)

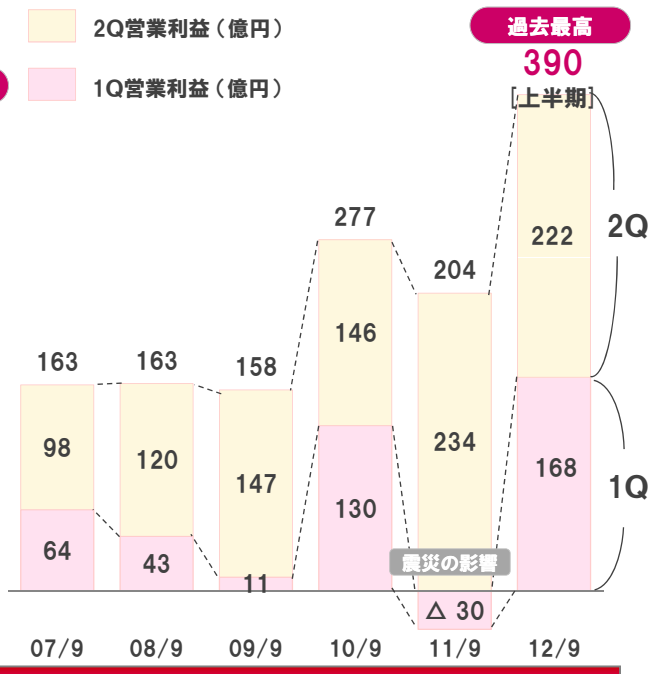
モノレール事業の増などにより増益

3. 上半期実績 - 業績推移

連結売上高・営業利益率の推移(上半期)



四半期別連結営業利益の推移(上半期)



売上高・営業利益ともに過去最高

4. まとめ

上半期実績 対 前年同期

・通常営業に戻ったことや両パークのスペシャルイベントが好調であったことなどから、テーマパーク入園者数およびゲスト1人当たり売上高が増加し増収となった。

・通常営業に伴いコストが増加したものの、売上高の増加により増益となった。

上半期実績 対 期初予想

・両パークのスペシャルイベントや新アトラクション「トイ・ストーリー・マニア！」の好調に加え、夏休み期間に雨天日が少なかったことなどにより、テーマパーク入園者数が予想を上回ったことや、ゲスト1人当たり売上高が商品販売収入の好調などにより増加したことから増収となった。

・加えて、下半期への費用の時期ずれがあったことなどから増益となった。

Oriental Land Co.,Ltd.

Ⅱ. 今後の見通し

代表取締役社長（兼）COO
上西 京一郎

1. 通期修正予想（期初予想比較）

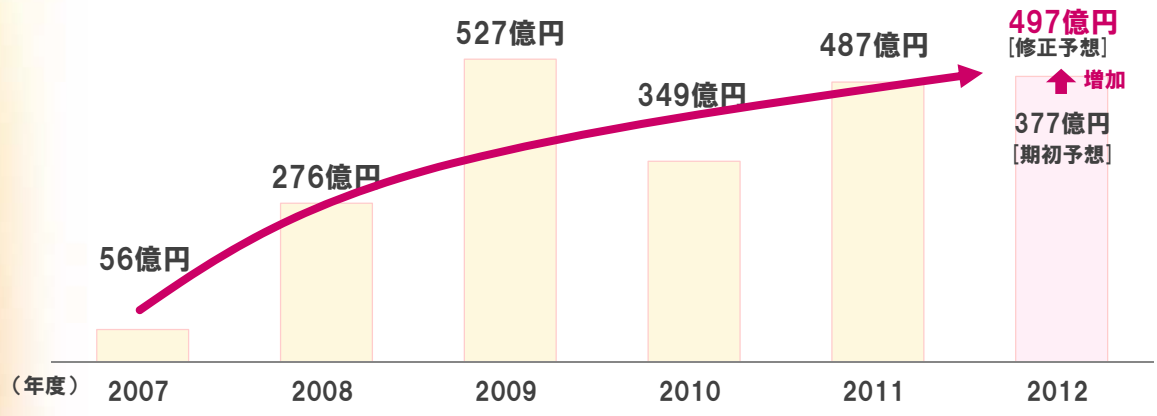
連結損益計算書	期初予想（億円）	修正予想（億円）	増減（億円）	増減率
売上高	3,694	3,854	159	4.3%
テーマパーク事業	3,079	3,208	129	4.2%
ホテル事業	452	482	29	6.6%
その他の事業	162	163	0	0.1%
営業利益	651	756	105	16.1%
テーマパーク事業	560	640	80	14.3%
ホテル事業	95	114	19	20.4%
その他の事業	△ 5	0	5	-
経常利益	643	750	107	16.6%
当期純利益	400	483	83	20.9%
テーマパーク入園者数	2,630万人	2,710万人	80万人	3.0%
ゲスト1人当たり売上高*	10,270円	10,420円	150円	1.5%
設備投資額*	391億円	346億円	△ 45億円	△ 11.5%
減価償却費*	368億円	360億円	△ 8億円	△ 2.2%

＊ 内訳 は、「決算補足資料」をご覧ください

通期予想を上方修正

1. 通期修正予想（フリー・キャッシュ・フロー）

フリー・キャッシュ・フロー*の見通し



＊フリー・キャッシュ・フロー＝当期純利益＋減価償却費－設備投資額

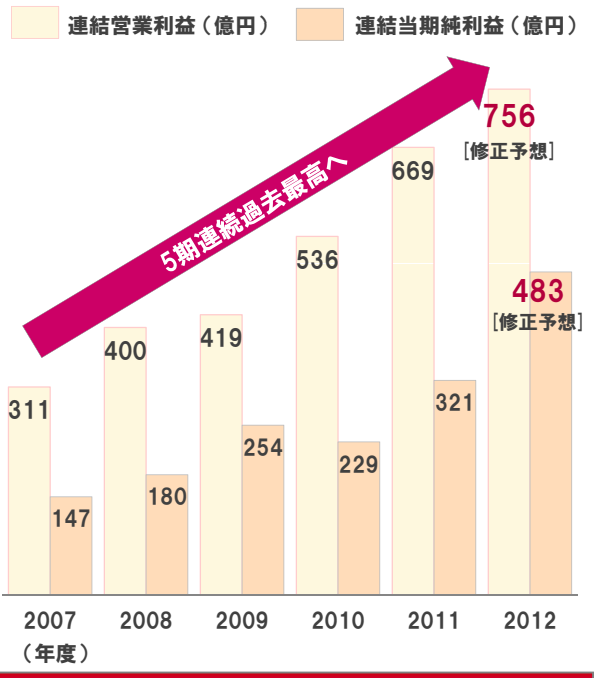
フリー・キャッシュ・フローは500億円レベルに

1. 通期修正予想(業績推移)

連結売上高・営業利益率の推移



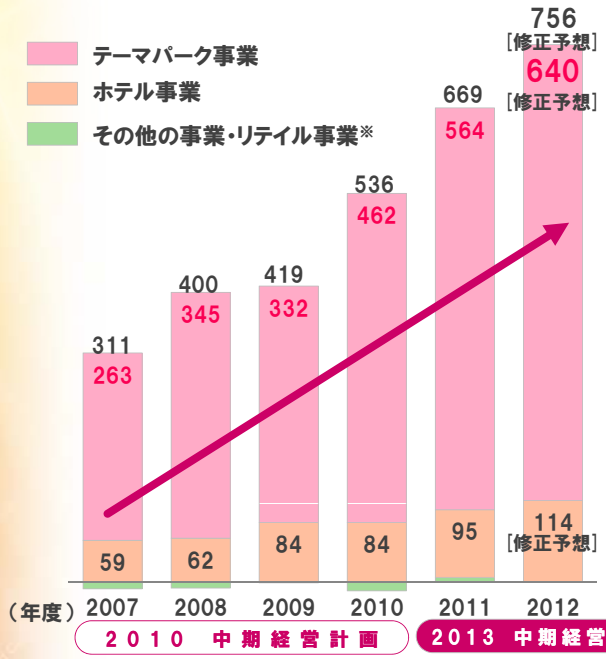
連結営業利益・当期純利益の推移



営業利益は、5期連続で過去最高を更新する見込み

2. テーマパーク事業の利益成長

セグメント別営業利益の推移



※ リテイル事業は2009年度末に譲渡

利益成長の要因

1. 売上高の増加
（東京ディズニーリゾートのバリューアップ）

2. 減価償却費の減少

3. コストのコントロール

→ 利益率の増

→ 利益成長

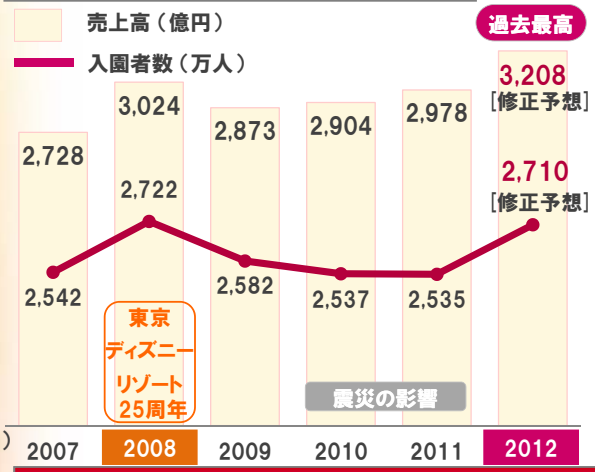
テーマパーク事業が全体の利益成長を牽引

2. テーマパーク事業の利益成長

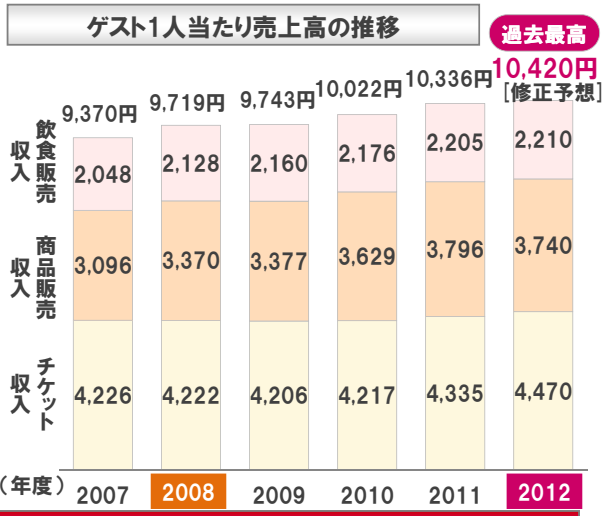
1. 売上高の増加

	2008年度(実績)	2012年度(修正予想)	増減
テーマパーク事業売上高	3,024億円	3,208億円	約6%増
テーマパーク入園者数	2,722万人	2,710万人	ほぼ同様
ゲスト1人当たり売上高	9,719円	10,420円	約7%増

テーマパーク事業売上高・入園者数の推移



ゲスト1人当たり売上高の推移



売上高は2008年度と比較して約6%増加

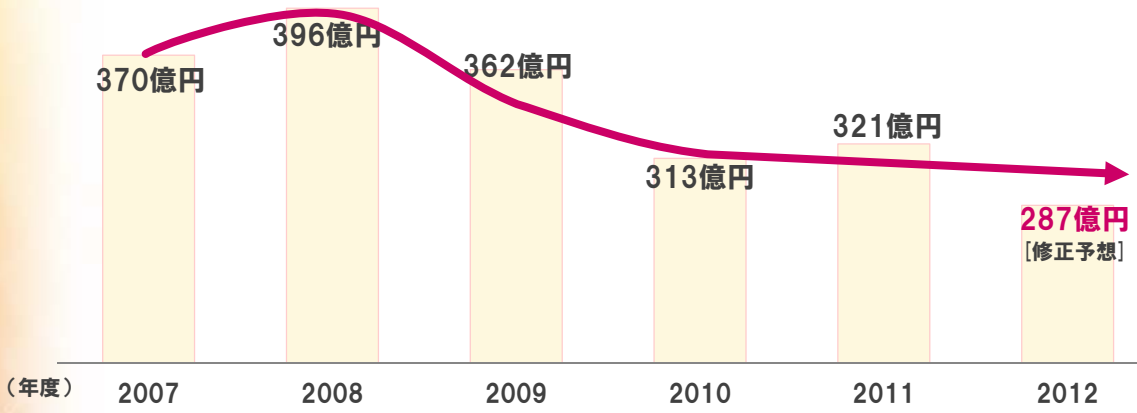
2. テーマパーク事業の利益成長

2. 減価償却費の減少

主な減少要因

- 東京ディズニーシーの初期投資に関わる減価償却費の減(2008～2010年度)
- 2007年度税制改正による均等償却の終了(2011～2012年度)

減価償却費(テーマパーク事業)



減価償却費が大きく減少

2. テーマパーク事業の利益成長

3. コストのコントロール①

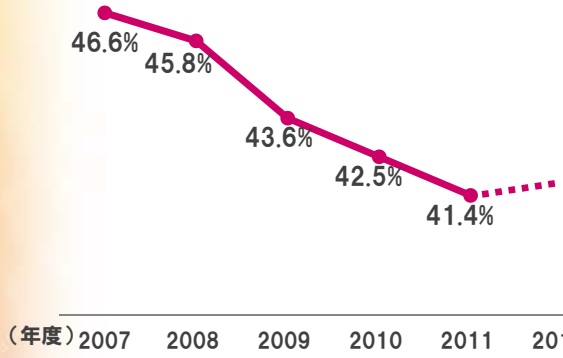
商品原価率の減少要因

- 売上構成比の変化
- 海外との直接貿易による仕入コストの減（円高の影響を含む）
- 適正な発注・在庫管理

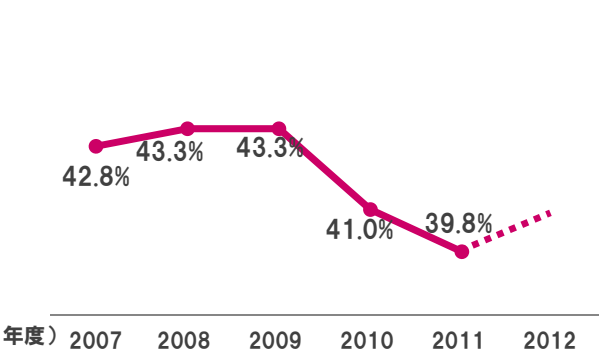
飲食原価率の減少要因

- 食材共通化による原材料費率の減
- 労務費率の減

商品原価率の推移



飲食原価率の推移

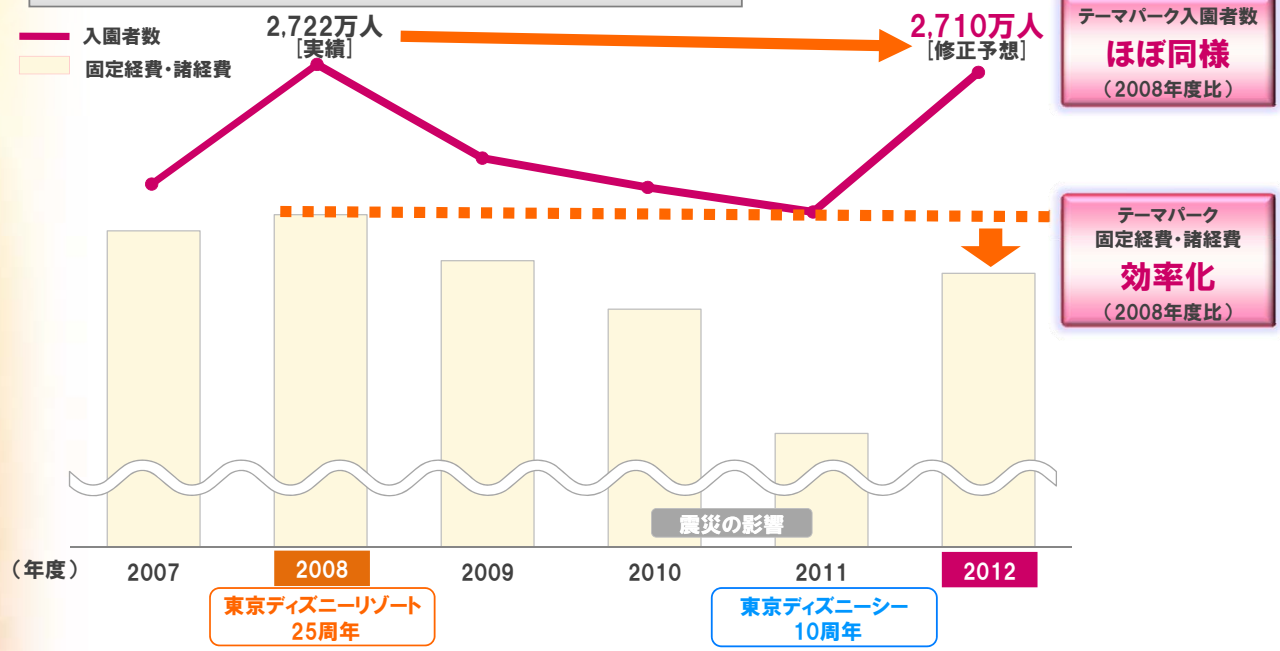


商品原価率・飲食原価率ともに減少

2. テーマパーク事業の利益成長

3. コストのコントロール②

テーマパーク入園者数及びテーマパーク固定経費・諸経費の推移



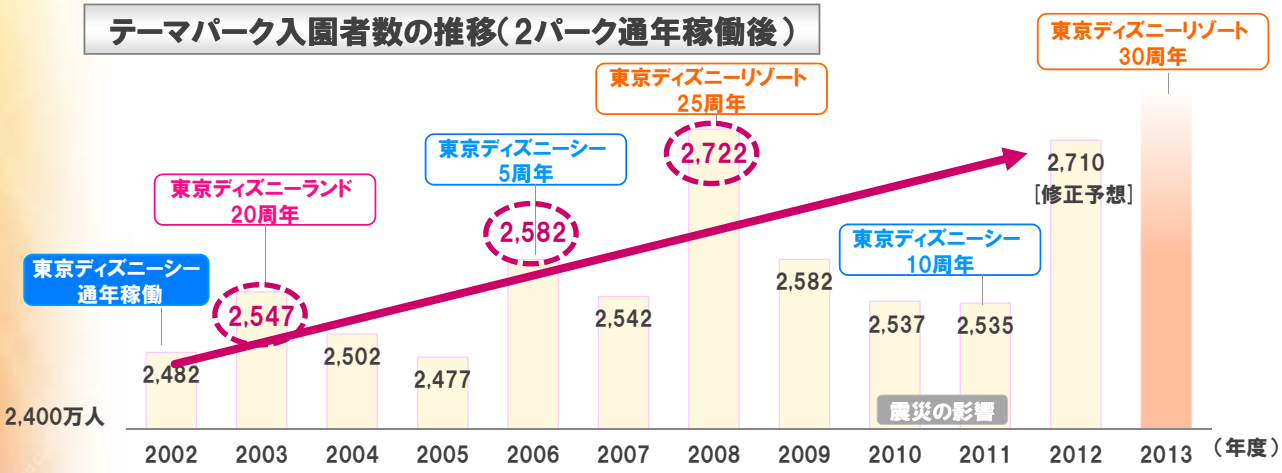
2008年度レベルの入園者数もコストは効率化

3. 来期の見通し

東京ディズニーリゾート30周年

期間	2013年4月15日～2014年3月20日
主なプロダクト	昼のパレード「ハピネス・イズ・ヒア」（4月15日スタート予定）
	新アトラクション「スター・ツアーズ：ザ・アドベンチャーズ・コンティニュー 」（2013年春オープン予定）
	夏の新規イベントやハロウィーン・クリスマスなどの歳時記イベント

テーマパーク入園者数の推移（2パーク通年稼働後）

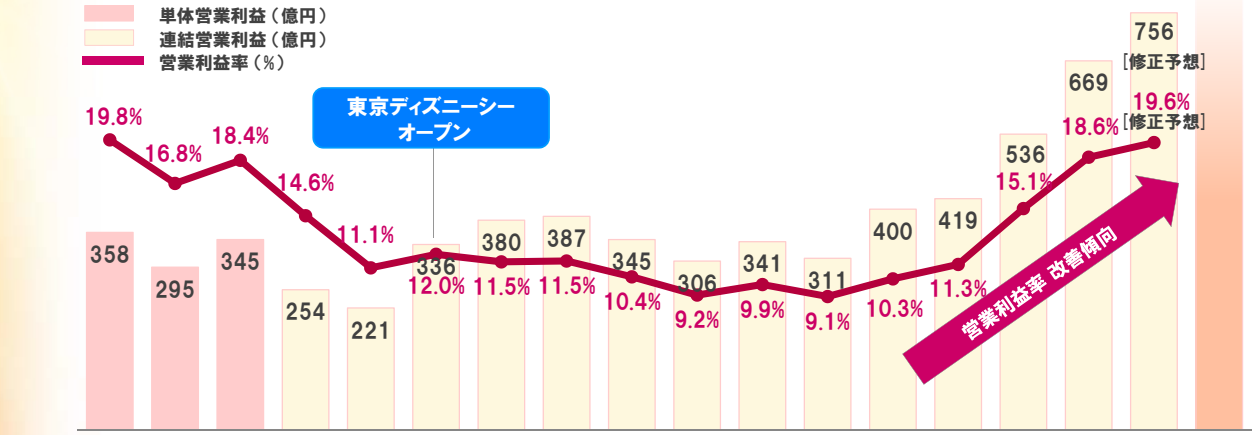


周年イベントをきっかけに入園者数が向上

3. 来期の見通し

営業利益・営業利益率の推移

1パーク時代 営業利益率 約20% ▶ 減価償却費の負担大/コスト面の増加 営業利益率 約10% ▶ 利益率改善 営業利益率 約20%



	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
減価償却費（億円）	119	112	116	124	184	379	479	459	445	433	429	436	497	466	399	398	360 [修正予想]	–
設備投資額（億円）	384	441	598	1,304	1,822	1,097	148	292	468	431	548	526	401	194	279	232	346 [修正予想]	–

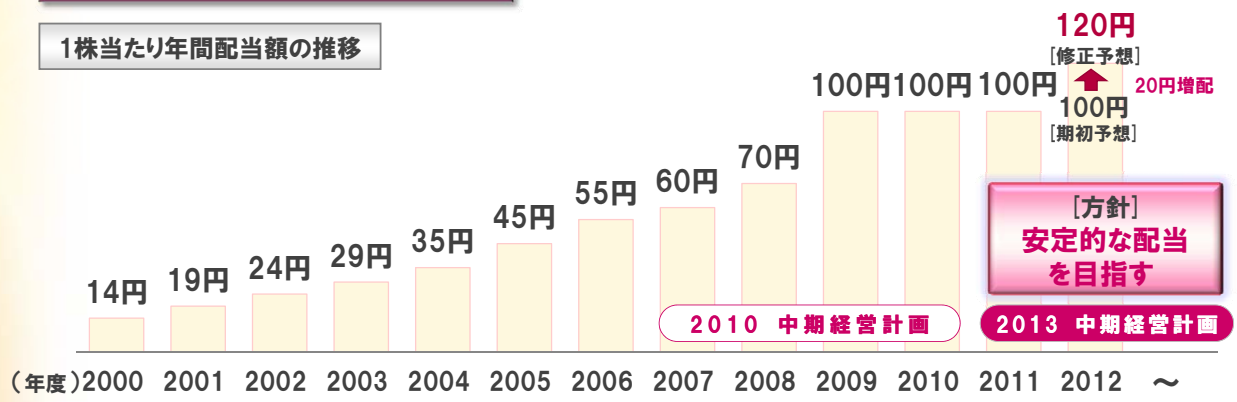
※ 1998年度以前は単体決算の実績

来期も増益を目指す

4. 株主還元

株主還元 － 配当

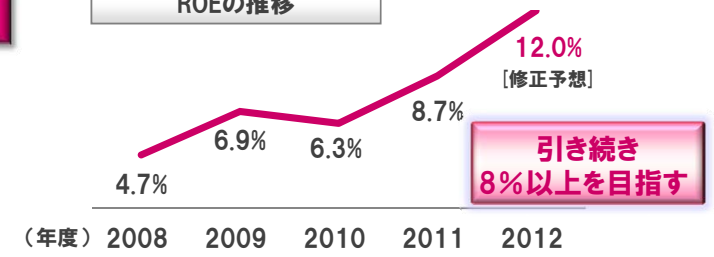
1株当たり年間配当額の推移



ROEの向上

今年度は、12.0%となる見込み

ROEの推移



配当予想を上方修正

Oriental Land Co.,Ltd.

株式会社オリエンタルランド　経理部IRグループ

www.olc.co.jp

注意事項：

本資料は、OLCグループの業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではございません。

本資料にて開示されているデータは、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。当社グループの事業は、顧客嗜好・社会情勢・経済情勢等の影響を受けやすい特性を持っているため、本資料で述べられている予測や見通しには、不確実性が含まれていることをご承知おきください。

テーマパーク入園者数については単位未満を四捨五入、財務データについては単位未満を切り捨てて記載しています。

本資料の転載はご遠慮ください。